

組織目標評価報告書(2019年度)

10

部局名:

環境理工学部

部局長名:

難波 徳郎

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①入試における志願者倍率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の事業を実施する。高校生対象の「環境研究動画コンテスト」、高校への出前講義、学生募集支援企画(夢ナビ)でのミニ講義、オープンキャンパス時の保護者対象説明会 2021年度に予定されている環境理工学部と工学部の融合改組に関して、2020年度入試説明会等で公表する情報公開の方法や公開内容について検討する。 <p>2. 教育の実施体制</p> <p>①教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1996年から継続実施している教員対象の研修会を実施する。 2017年に設置されたグローバルディスカバリープログラム(GDP)について、マッチングトラック生のみならず、専修トラック生についても卒業研究の指導に協力するための体制を整備する。 2021年度予定の本学部と工学部の融合改組による新学部構想案を策定する。 <p>②「教育の質保証」に関する体制整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部の教育プログラムを評価するための体制を整備し、内規を作成する。 <p>3. 教育方法・内容</p> <p>①教育方法・内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学部が推進してきた実践型環境教育、キャリア教育の更なる充実を図る。 GTEC、TOEICスコアを卒業論文履修要件に課した効果を検証する。 技術者倫理、環境倫理教育を継続し、学生の倫理観の向上を図る。 <p>②国際共同による教育の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> タイ国カセート大学、国立台湾大学との国際交流プログラム「GP特別コース」、ベネッセ(株)との「英語で学ぶニュージージーランド環境研修プログラム」、地域企業との「環境ものづくり国際インターンシップ」の実施により、グローバル教育を推進する。 <p>4. 教育の成果</p> <p>①教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の学習到達度の定量的な評価方法について検討する。 卒業生や就職先などに意見聴取を行い、教育方法の改善等につなげる。 <p>②学生支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> CAやTA・SAによる学習支援の他、本学部独自のキャリア支援を継続して行う。 学業不振者の早期発見と指導支援体制の充実を図る。 <p>③外国人留学生の受入状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生の教育支援、英語科目の充実により、留学生の志願者数増加を目指す。 	<p>2-1,2</p> <p>85-1</p> <p>16-1</p> <p>50-2</p> <p>13-1, 2-3</p> <p>15-1, 84-1</p> <p>2-1,2, 5-1,2</p> <p>16-1, 21-1</p> <p>1-1,2</p> <p>5-1,2</p> <p>1-1,2, 6-1</p> <p>50-1,2</p> <p>12-1, 15-1</p> <p>2-1,2</p> <p>7-1, 21-1,</p> <p>22-1</p> <p>1-1,2, 14-2,</p> <p>18-1,4, 23-1</p>	<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①入試における志願者倍率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施事業: 高校への出前講義(14校)、学生募集支援企画(夢ナビ)でのミニ講義(1件)、オープンキャンパス時の保護者対象説明会。未実施事業: 「環境研究動画コンテスト」(準備のための時間不足) 新工学部の広報活動に関する合同部会を工学部と立ち上げ、活動計画を策定した。 <p>2. 教育の実施体制</p> <p>①教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員対象の研修会を5回実施した。このうち4回は、学部改組に関する意見交換を行った。 GDP専修トラック生の卒論指導について、学部全体での合意形成に至らず、引き続き検討する。 改組による新工学部構想案を策定し、4月に文科省に提出予定の書類などを取りまとめた。 <p>②「教育の質保証」に関する体制整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部の教育プログラムを評価するための内規作成には至っていないが、8人の外部評価者を選定し、2020年1月に本学部の教育に関する外部評価を実施(外部評価者8人のうち書面審査3人)。 <p>3. 教育方法・内容</p> <p>①教育方法・内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「SDGs・ESD実践演習」「SDGs・ESD実践基礎」を新規開講し、実践型環境教育の充実を図った。 卒論履修要件GTEC、TOEICスコアの達成状況: H28年度入学時159人中76人未達、3年終了時未達8人、H29年度入学時157人中52人未達、3年終了時未達5人。未達人数が大幅減少した。 技術者倫理、環境倫理教育、キャリア教育を継続して実施した。 <p>②国際共同による教育の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「GP特別コース」でカセート大学に5人(すべて農学部生)、国立台湾大学に5人(すべて環境理工学部生)を派遣し、両大学から5人ずつ計10人を本学に受入れた。「英語で学ぶニュージージーランド環境研修プログラム」に1年生13人が参加。「環境ものづくり国際インターンシップ」は希望者なしで未実施。 <p>4. 教育の成果</p> <p>①教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学部卒業生1人、就職先企業1人、団体1人を委員に含めた外部評価を実施した。 <p>②学生支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> CAと面談し履修状況確認、TA・SAの実習・実験補助、キャリアサポート室相談員の学生支援を行った。 <p>③外国人留学生の受入状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「GP特別コース」でカセート大学に5人(すべて農学部生)、国立台湾大学に5人(すべて環境理工学部生)を派遣し、両大学から5人ずつ計10人を本学に受入れた。「英語で学ぶニュージージーランド環境研修プログラム」に1年生13人が参加。「環境ものづくり国際インターンシップ」は希望者なしで未実施。
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 環境生命科学研究科と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 質の高い課題研究を指導し、研究水準の更なる向上に努める。 学部研究報告、HP等を通じた積極的な情報発信により研究成果の社会還元を図るとともに、成果の質の確保・向上に繋げる。 外部競争的資金(特に科研費)の積極的な申請を支援する。 積極的な異分野融合研究を提案する。 共同研究を推進する。 SDGsを意識した研究を展開する。 <p>2. 研究倫理教育について、教職員と学生を対象に更なる充実を図る。</p>	<p>27-1</p> <p>85-1</p> <p>79-1,2,3</p> <p>27-1</p> <p>32-1</p> <p>46-1,2</p> <p>9-1</p>	<p>1. 環境生命科学研究科と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院へ進学する成績優秀な学部4年生に対して、大学院の授業科目を先取り履修可能なFlexBMDコースへの応募を促した。今年度は、8人の学生が同コース履修を希望した。 本学部の教育・研究活動について、著書、原著論文、総説、研究受賞等、学位論文(博士、修士、学士)指導の状況などを環境理工学部研究報告にまとめ、本学学術成果リポジトリHPに掲載した。 外部競争的資金(特に科研費)の積極的な申請を支援する。代議員会議・運営会議と各学科の教室会議を通じて、本学部教員に外部資金(科研費、共同研究、受託研究等)の申請・獲得を促した。また、研究科と協力して、希望者に対して科研費申請書の添削を行った。 <p>2. 学部4年生の卒論履修有資格者を対象に「研究倫理教育」を3回実施した(履修率: 99.3%)。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス、高大連携による大学訪問と高校への出張講義、スーパーグローバルサイエンス校への支援協力を通じて、地域の高等学校との連携を図る。 昨年度実施できなかった「環境研究動画コンテスト」を開催し、全国の高校生に本学部の環境教育を知ってもらうとともに、環境問題へ理学的視点からのアプローチの面白さを啓発する。 公開講座等を通じて、地域住民の環境意識啓発に貢献する。 教員免許更新講習等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。 実践型環境教育「実践型水辺環境学及び演習」「学内水循環施設を活用した蜚の生育地創成プロジェクト(蜚プロジェクト)」などの成果を近隣住民に発表し、環境理工学部の教育・研究活動について周知する。 「SDGs・ESD実践基礎」「SDGs・ESD実践演習」などの実践科目の拡充を通じて地方行政、NPO法人、地域社会との連携を図る。 岡山と海外に生産拠点を持つ地元企業との協働プログラム「環境ものづくり国際インターンシップ」を通じ、地場産業の活性化を図る。 2018年度に整備した、企業と自治体を対象に環境報告書をSDGsと紐づける「SDGs環境活動コンサルティング事業」について、コンサルティングを実施する。 <p>2. 国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> タイ国カセート大学、国立台湾大学との協働実施国際交流プログラム「GP特別コース」を実施し、地方行政機関やNPO等との連携により地域社会との交流を図るとともに、海外大学との交換留学により国際交流を図る。 Co-opプログラムに参加するカナダブリティッシュコロンビア大学の留学生を受け入れ、本学学生との国際交流を図るとともに、Co-opプログラムに参加した10社程度の地域企業との交流も図る。 国際的な感覚と地球規模の環境問題について若い学部学生への意識付けを目的として「英語で学ぶニュージージーランド環境研修プログラム」を地元企業との協働で実施する。 	<p>47-1</p> <p>47-1</p> <p>47-1</p> <p>47-1</p> <p>47-1, 49-3</p> <p>46-1,2</p> <p>48-1,2</p> <p>46-1,2</p> <p>46-1,2</p> <p>51-1,2</p> <p>52-1,2</p>	<p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスには943人が参加(対前年比29.1%増)。大学訪問は19校(うち2校は中学校)と高校14校への出張講義、スーパーグローバルサイエンス校(1校)へは教員と学生の派遣により、地域の中高等学校との連携を図った。 高校生対象の「環境研究動画コンテスト」については準備が整わず、開催に至らなかった。 「持続可能でしなやかな社会を実現する地域環境学」と題して公開講座を8月に開催し、52人の地域住民が参加した。 8件の教員免許更新講習を実施し、延べ159人の教員が受講した。 「実践型水辺環境学及び演習」履修生を中心に「ほたる祭り2019」を企画・開催し、近隣住民ら143人の参加者に、本学部の教育・研究活動を紹介した。 「SDGs・ESD実践演習」(旧科目名: ESD実践演習)を継続開講するとともに、2019年度から専門基礎科目に加えた「SDGs・ESD実践基礎」(2年次配当)を学外招聘講師(ユネスコ・アジア文化センター、岡山ユネスコ協会、岡山ユニセフ協会)も交えて特別開講し、地域との連携により実践科目の充実を図った。 「環境ものづくり国際インターンシップ」は参加希望者がおらず、2019年度は実施できなかった。 「SDGs環境活動コンサルティング事業」は全学で取り組むこととなり、学部としては実施しなかった。 <p>2. 国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「GP特別コース」を実施し、地方行政機関やNPO等との連携により地域社会との交流を図るとともに、タイ国カセート大学、国立台湾大学との交換留学により国際交流を図った。 2019年度のCo-opプログラムにおいて、カナダUBC学生2名を本学部の研究室に受け入れた。 「英語で学ぶニュージージーランド環境研修プログラム」を地元企業と協働で実施し、1年生13人が参加した。
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 部局運営体制の改善強化と組織の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的な組織運営により、教員の研究時間を確保する。 2020年度予定の第3期中期目標期間評価に向けて、分析項目を確認し、準備を開始する。 2021年度予定の本学部と工学部の融合改組による新学部の管理運営体制を検討する。 <p>2. ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ推進室と連携し、男女共同参画を支援する。 <p>3. 効率的・戦略的な予算配分・執行について</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル化・実践知・異分野融合に加えて、SDGsの推進を促す予算配分と執行を行う。 <p>4. 安全衛生に対する配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部安全衛生委員会の定例開催による情報の提供、安全衛生に関する問題点の吸い上げと迅速な対応に努める。 <p>5. 施設整備の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設パトロールや部局ヒアリングなどの機会をとらえて、教育研究環境の向上を目指す。 <p>6. 法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術者倫理、環境倫理、ならびに研究倫理教育の充実を図る。 コンプライアンス研修会を実施する。ハラスメント研修会を実施する。 情報セキュリティセミナーを開催する。法令遵守体制の整備に努める。 	<p>69-1</p> <p>84-1</p> <p>13-1, 69-1</p> <p>70-1</p> <p>87-1</p> <p>89-1</p> <p>86-1</p> <p>93-1</p> <p>90-1</p>	<p>1. 部局運営体制の改善強化と組織の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部、全学委員会の委員担当状況を確認し、負担を見直し教員の研究時間確保に努めた。 第3期中期目標期間評価に向けて、現況調査表(教育、研究)を取りまとめた。 新「工学部」の管理運営体制を検討するために設置された設置準備委員会に参画した。 <p>2. ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ推進本部の次世代育成支援室に1人、男女共同参画室に2人の教員を派遣した。 <p>3. 効率的・戦略的な予算配分・執行について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学内水循環施設」維持管理に予算配分し、グローバル化・実践知・異分野融合・SDGsを支援した。 <p>4. 安全衛生に対する配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部安全衛生委員会を11回開催し、安全衛生関連の情報提供、問題点吸い上げと対応に努めた。 <p>5. 施設整備の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> LED照明化、講義室等のファンコイル更新、学部棟の防犯カメラシステムの更新などを実施した。 <p>6. 法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生対象倫理教育の実施: 技術者倫理@「技術者倫理」、環境倫理@「環境理工学入門」(1年生対象、専門基礎)、研究倫理教育(4年生対象、3回実施)。 教職員対象研修会等の実施: コンプライアンス研修会(2/12, 34人参加)、ハラスメント防止研修会(2/19, 34人)、情報セキュリティe-Learning(1/14現在受講87%、第5回情報統括センター運営委員会資料より)。